

○第4回 全世代・全員活躍まちづくりセンター整備検討委員会（12/21）

【議論の要点のまとめ】

1. インターネットアンケート及び座談会の結果について

- 具体的かつ重要な意見を多数頂いた。これまでよりも気軽に、日常的に利用したいというニーズが把握できた。
- ステージ、コンパクトでリーズナブルなホール、防音設備などのニーズも把握できた。

2. 今後の進め方について

- 官民連携手法の導入を検討しており、その場合の一例としてDBO方式の説明を行った。DBO方式は、一般的には設計から維持管理まで一括することで、全体のコスト縮減に寄与できることが大きなメリットである。
- 仮にDBO方式となった場合には、どういう施設にするかの方向性までは決めるものの、最終的な設計は事業者が行う。ただ、その場合でも設計対話等を通じて、住民の意見も反映可能と考えている。
- 直営を含めたDBO以外の事業手法の説明、比較は、次回の委員会でしっかりと行う。
- 以前の「あり方検討委員会」での議論を踏まえ、現地建て替えを前提に議論を進める。

3. 建物の配置や規模、機能について

- 民間事業者の工夫等を取り入れるという点では紹介のあったDBO方式は良いと思うが、民間事業者に中長期に委託することによるデメリットはないのか。
- DBO方式によるコスト削減も重要と思うが、その場合、公共性が高く非営利の公民館としての活動が失われるのではないか。
- 会議室等部屋の配置が少ない。
- 現在の案では、使い方のイメージができない。導入しようとしている機能がどの施設空間に紐づけられるのか整理が必要。
- まちづくりセンターの位置づけ等を既存施設との棲み分けを含め、しっかりと整理する必要がある。
- 避難機能等災害時の対応もしっかりと考慮すべき。
- このまちづくりセンターは町役場の横にあるというのが最大の特徴。立地を活かして、賑わいの形成、CCAC構想の中心とすることが重要。そのための使い方、使いこなし方を住民みんなで考えていくことが必要。
- 住民が主体的に参加、運営していくイメージをもっと持てるようにする必要がある。
- 公民館機能を保持しながら、民間連携を導入していくのはどうすべきか、引き続き検討する。民間企業に丸投げする訳では無い。